

太田市住民協議会（第2回）
議事概要

太田市



第1分科会

区分	第1分科会
コーディネーター	伊藤伸
日時	2017年8月5日(土) 15時40分～16時40分
場所	太田市役所 1階 1A会議室

主な論点

退職後（リタイア後）の社会参加について

- 委) 先日、地区の夏祭りに参加したが、住民の参加が少ないように思った。私の住む住宅団地では、ちょうど定年退職を迎えた人たちが多く、特にリタイア後の男性の参加が少ないように思う。
- 委) リタイア後に社会参加をせず、あまり外に出ないというのは、精神的な健康にも良くないのではないだろうか。
- コ) リタイア後の男性が社会参加していない理由として何が考えられるだろうか。
- 委) 退職を機にあらためて社会参加するというのはハードルが高い。勤め先の人しか知り合いがないという人もいる。
- 委) 仕事以外に何ができるかわからない人も多いのではないだろうか。
- 委) 父がリタイア後に趣味もなく、いずれは介護が必要になることが容易に想像できるので、教室に勝手に応募して参加させている。
- 委) 男性は仕事なくなるとだらしなくなる。周りにある程度コントロールされるというのもいいのではないか。
- コ) リタイア後の社会参加という点で、市では何か課題に感じていることや取り組んでいることはあるだろうか。
- 市) 健康診断では、やはり圧倒的に女性の参加が多い。定年退職した男性は、妻につれてこられるというケースが多いように見受けられる。
- 市) 介護予防という観点では、高齢者世帯にアンケートを実施し、引きこもりがちな人には介護予防教室などを案内している。しかし、それで参加してくる人はまだよく、参加しない人のケアが本当の課題だと感じている。
- 委) 定年後でも元気に働ける人はいる。体が元気なのに、働く場がない。
- コ) シルバー人材センターがあるが、作業の内容はどうなっているのだろうか。
- 市) 除草作業、賞状の筆耕などが多い。
- 委) 技術を取りなおせるような場があるといい。仕事が充実して初めて趣味ができると思う。

「楽しさ」と「ながら」、「やらなきゃダメ」について

- コ) 昨日、太田市内の健康づくり関連施設を見学してきたが、太田市はパークゴルフ場が多いように思った。どういう層が参加するのだろうか。
- 委) グランドゴルフでの利用者が多いように思うが、多くは老人会での利用だと思う。
- 委) 老人会となるとハードルが高く、参加しづらい。
- 委) 自分から調べるところまで至らないので、興味のある人がわかるところに情報あるといい。
- 委) 楽しくないと集まらないと思う。
- 委) ちょっとした時間にできるということとストレッチや家事の合間のかかと上げなど、ながらでできることを少しづつでもよいのではないか。

- コ) 「楽しい」と「ながら」というキーワードが出たが、他に運動や健康づくりにつながるキーワードはあるだろうか。
- 委) 便利は運動しなくなる。
- 委) 老人会で踊りを踊っているが、イベントでお披露目するために、毎朝練習をしている。何か目的をもっていないと続かない。
- コ) ゴールが決まっているからやらなければならないと思うということだろうか。「楽しさ」、「ながら」、「やらないやダメ」の3つの要素が運動をはじめとして健康づくりのポイントになりそうである。

総括

分科会会長総括

- ・ 定年退職を迎え、社会参加が減ってしまった高齢の男性が多い。女性に比べ、地域とのつながりが少なく、引きこもりになりがち。仕事のようにやりがいや少々の強制力も必要ではないか。
- ・ 健康づくりは時間が無い人にはハードルが高いので、何かをしながらついでにできることなどが有効ではないだろうか。

コーディネーター総括

- ・ 働いているときは緊張感を持っているし、外にも出ていく。リタイアした後は、外に出ていく機会も減っていく。身体を動かす機会も減り、健康にも影響するという悪循環が生じる。
- ・ 介護など福祉の領域までいくと行政のサポートがあるけれど、その狭間（現役と福祉の狭間）は行政が手を出しにくい部分である。自分たちでできることとして、地域との関わりが大事だと考えられるが、リタイアした後にどう社会との関わりをつくるかがポイントとなってくる。
- ・ 仕事や家事が忙しいと運動や健康づくりが長続きしない。「楽しい」、「ながら」、「やらないやダメ」の3つの要素を作ることがその解決策のポイントとなるのではないか。
- ・ 次回は、食事や精神面の健康についても考えていきたい。

第2分科会

区分	第2分科会
コーディネーター	山根 晃
日時	2017年8月5日(土) 15時40分～16時40分
場所	太田市役所 6階 6B会議室

主な論点

ストレスについて

- コ) 前回、食事や運動、精神的な健康、コミュニティなどについて話したが、あらためて「健康」について思い浮かぶものとして何かあるだろうか。
- 委) 仕事上のストレスについて、ワークライフバランスを大事にしている。子供が生まれるまでは、仕事のことをプライベートでも引きずっていたが、子供が生まれてからは、仕事は仕事、家庭は家庭、スポーツはスポーツと割り切っている。
- 委) 私の勤め先では、定期的にストレスチェックをしている。チェックの結果、必要に応じて産業医の先生に診てもらおうようになっている。
- コ) ストレスチェックで多角的に健康をチェックするのは大事である。市でも実施しているだろうか。
- 市) 市で全市民に実施するという事はなく、基本的には企業などの事業主が実施主体である。主婦や高齢者などはカバーできていないことは課題であると考えている。
- 委) 高齢の姉が老後の身辺整理をする中で、精神的なストレスを抱えた際に、食事が進まない様子で、弱気な発言も増えたので、地域の診療所に連れて行ったら、介護支援を受けるよう助言をもらったため、市役所で要介護認定を申請した経験がある。
- コ) 高齢者をサポートする仕組みは、全体的に手厚くはなっているが、個人的な悩みだと隣近所に相談できないこともあるだろうと思う。
精神的なストレスについて相談できる場は必要だろう。

けん診について

- 委) 私は 25 歳まで会社に勤めていて会社のけん診を受けていたが、現在は就農して農業経営をしている。健康も自分で管理しなくてはいけなくなったが、若い世代にも市からけん診の案内があるのだろうか。
- 市) 基本的には、保険者が健康診断をすることになっている。国民健康保険の加入者は、市のけん診を受けることになるが、40 歳以上が対象となる。
それ以下の世代では、25 歳、30 歳、35 歳の 5 歳刻みでヘルスチェックという健康診断の機会を設けている。
- 委) 定年退職をして、勤め先の健康診断を受けられなくなったので、市のけん診に行かなければならないのだが、なかなか面倒で行かない。妻に連れられて行くくらいである。
- コ) 男性と女性で受診率はどうか。
- 市) 女性の方がけん診の種類が多いということもあるので、男性に比べ女性の受診率が高く見受けられる。
- 委) 私は健康そのものだったのだが、市のけん診の通知が来て、受けたら胃がんであることが分かった。
- コ) 当事者の話を聞くと受診促進につながるかもしれない。

コミュニティと当事者意識について

- 委) 私の住む地域では、最近新興住宅が建つようになり、小さい子供がいる世帯が新しく入ってきているが、子供の名前と顔がわからない。
地域の大人と子供の交流が少なくなっているような気がする。
- コ) 中学生や高校生なら十分に地域の力になると思う。この中にも高校生がいたので、意見を聴きたいと思うが、地域の活動に参加しているだろうか。
- 委) ほとんど参加していない。(高校生)
- 委) 今日、地域の納涼祭で、子ども達も参加していたが、どこ家の子であるかは全然分からない。逆に私は納涼祭でお赤飯を振る舞うので、子ども達に「お赤飯のお婆さん」と呼ばれた。
- 委) 災害時などは地域のつながりが大事になってくるのではないだろうか。
- コ) 防災だけでなく、防犯の面でも地域のコミュニティは大事だろうと思う。世の中が便利になって、自分たちだけでも日常の生活であればできてしまうが、いざ非常の事態になった時には、顔の見える環境がないとボディブローのようにじわじわと効いてくる。
- 委) 地域の中での話し合いの体制ができていない部分もある。もっと小さい単位で話し合う機会があるといい。
- コ) 現代社会では、情報が溢れている。行政も多くの情報を出している。この情報がコミュニティの中で顔の分かる人とやり取りされることで生きた情報となるのだろうかと思う。
- 委) 先ほどのけん診の話ではないが、健康関連のテレビ番組を観たり、本を読んだりしてもなかなか当事者意識が生まれにくい、身近な人の話なら親身になって聞ける。

総括

分科会会長総括

- ・ 健康診断について、女性に比べ、男性の関心が薄い。
- ・ 現役の時には勤め先のけん診を受けるが、定年退職した後自分で受けに行かなければならず、行政から送られてくる案内も右から左に流してしまいがちになる。
- ・ 実際にけん診でがんが見つかった人の話や、小さなコミュニティで顔の見える関係の人から聞いた情報だと当事者意識が芽生えるのではないか。

コーディネーター総括

- ・ メンタルヘルスや健康診断の話をはじめ、相談できる体制について議論した。行政側にそういう場を新しく作ってほしいという話だけではなくて、当事者に話を聞いたり、身近な人に相談できる環境がつかれるとよい。
- ・ 現代社会で、情報が溢れている中で、情報をどうしたら自分のことにできるかということ話を話合った。相談できる体制についても同じことが言えるかもしれないが、当事者の話を聞ける環境であったり、小さいコミュニティで身近な人と情報をやり取りする必要があるのではないか。
- ・ 次回は、介護予防や子どもの健康などについても触れたいと思っている。

第3分科会

区分	第3分科会
コーディネーター	石井 聡
日時	2017年8月5日(土) 15時40分～16時40分
場所	太田市役所 6階 6A会議室

主な論点

子どもの運動における親の負担について

- コ) 昨日、太田市運動公園のトリムコースを見学したが、平日にもかかわらず多くの人
が歩いていた。あれだけの人数がルールを守って反時計回りに回っているのは驚い
た。この中にも利用している人はいるだろうか。
- 委) 私は近所の公園で歩いている。5月に市のウォーキング教室にも参加した。
- コ) 若い人はどうだろうか。学生は、運動という部活などが中心だろうか。逗子市
では各学校でサッカー部がなくなってきていたりもする。学校には良い指導者がい
ないため、外部の強いチームに移ってしまい、その結果学校のチームが弱くなり、
また人が減るといふ負のスパイラルに陥っている。
- 委) 私は小学校時代にドッジボールクラブに入っていた。中学、高校では学校の陸上
部にも入っていたが、中学校では太田スポーツアカデミーの陸上部にも入っていた。
(高校生)
- コ) 先日、「スポーツ少年団が続かない。保護者も当番が大変。」という内容の記事を見
たが、子どもの運動という点で、親の負担はどうだろうか。
- 委) 子供が二人いるが、土日の行事への参加は大変。習い事にはスイミングスクール
のようにスクールに任せきりにできるものと、親がサポートしなければいけないも
の、部活の3つのパターンがあると思うが、その中では任せきりにできるものに流
れていく傾向にあるのではないだろうか。
- 委) 少子化でチームを作るのも大変だと思う。私が子供のころは、野球でも一学年で9
人集まったが、今は4～6年生でやっとチームが作れる。
- 委) 昔は自転車で子供を送り出せたが、今はみんな車で送り迎えになっていると思う。
物(バットやグラブ)も昔は共有していたが、今は一人一個になっている。こう
いった部分でも親への負担も大きいのではないかと感じる。

地域におけるリーダーについて

- 委) 今は夏休みのラジオ体操をやっているのだろうか。私の近所では、やってないよう
に思うのだが。
- 市) 市ではラジオ体操に力を入れていて、市のスポーツ施設、行政センターでは毎日
のようにやっている。
- 委) 私の地域では「地域丸ごと健康づくり」という活動をしている。80歳になっ
ても健康な歯が20本あって、ピンピンコロリを目標にしている。
しかし、継続することがなかなか大変。
- コ) それはどういうつながりで声をかけているのだろうか。
- 委) 生活協同組合を通じて声をかけている。しかし、一番大変なのは中心になる人がい
なくなってしまうこと。中心になって動ける人がいないと継続できない。
例えば、退職された体育の先生等と繋がりがあればいいと思う。
- 委) 確かに、地域の中での担い手みたいな役割がいるといいと感じる。その人は必ずし

も行政が任命し、対価を払うということではなく、自主的にやってもらえるような人がいるとよい。

- コ) 昨日、行政センターのストレッチ教室を見学したらすごく盛り上がった。そこにも中心となる先生がいた。そういう意味では先生と呼ばれる人がいると、続けられるのかもしれない。

情報の発信の仕方について

- 委) 先日、家族みんなが診てもらっていた主治医が亡くなってしまった。健康づくり課で医者の方の斡旋のようなことはしているのだろうか。
- 市) 斡旋ということではないが、医療マップを全戸配布していたり、市のホームページで医師会の加入機関を案内していたりはする。
- コ) この中で、市の医療マップを知っている人はどれくらいいるだろうか。
(若干名挙手)
あまり知られていないようだ。
- 委) 第1回協議会の市の取組み説明で初めて医療マップのことを知った。保健センターでのPRが中心となっているのだろうか。
- 委) 会社勤めだと、正直なところ市が何やっているかわからない。情報は広報や、市からのダイレクトメールに頼ることになる。
- 委) ○月○日にがん検診をやるというのは広報でわかるが、目標値などは広報に載っていないと思う。そういった市の全体方針などもPRした方がいいのではないか。
- 市) けん診のタイミングについては行政センターだよりを通して皆さんにお知らせしている。また、記載内容については、情報の伝わりやすさ、情報量などを考慮して決めているが、情報発信の仕方はたしかに課題と感じている。
- コ) 広報紙では、各担当課からのお知らせばかりになってしまっていて、目的や目標を書くスペースがなくなってしまうがちである。特集を組むなどして市の全体目標を示すこともあっていいかもしれない。
- 委) 目標ということで、長寿あんしん課では何か目標値など定めているのだろうか。
- 市) 具体的な数値目標を定めているわけではないが、介護予防という観点で、介護給付費を削減しなければいけないと考えている。給付費が増えると皆さんの介護負担が増えてしまうことになる。
- コ) 高齢者福祉に関しては、目標を絞ることがなかなか難しいところもある。健康寿命についても、定義が自治体によって違ったりと曖昧なところがある。
- 委) お金は視覚的にも目標の一つとして分かりやすいかもしれない。
- 委) 市から予算をこれだけ抑えたいから運動してほしいといわれても運動しようとならないと思う。自分ごととして捉えるための情報発信の仕方が大事だと思う。
- 委) 子育て中は忙しくて、自分のことまで考えが及ばない。そんな時にけん診の通知が来ても、先送りにしてしまいがちである。そういった層は市役所にはあまり行かないので、商業施設や子供向けの施設でPRする方がいいのではないだろうか。
- コ) 現在情報が届いていない人にいかに情報を届けるかという視点は大事。
- 委) 健康づくりが届かない人には、車に乗れない人も該当すると思う。もっと公共交通

機関が充実していればよいと感じる。

- 委) 母の運転で危ないなと感じることがある。公共交通機関がないから、高齢者などによる事故が増えるように思う。
- 委) 太田市は車の保有台数が高い。車ありきの便利な生活をしてきたのが、高齢化に伴う公共交通の課題についても出てくると思う。

総括

分科会会長総括

- ・ 子供の運動環境が変化してきている。少子化で団体スポーツのチームが組めないこともある。また、親の負担が大きくなっている。共働きする世帯も当たり前になってきており、子供にも細かいところまで手が届かなくなっている部分もある。
- ・ この地域は車がなければ生活ができないような状況である。高齢者の免許返納が新聞などで話題に取り上げられたりするが、自家用車がないと病院に通うにも不便。太田市では、80歳くらいでも運転している人は多い。

コーディネーター総括

- ・ 子供の運動については地域も変化している。昔は、いやでも地域の野球チームに参加させられるといったこともあり、小学校で1チームではなく、地域ごとにチームがあったほど。
- ・ 一人一人健康づくりといってもなかなか続けられない。地域ぐるみで健康づくりをしていくとしたら、たとえばラジオ体操を先導する人など、新しい地域の在り方にあった地域のリーダー像も模索する必要があるだろうと思う。
- ・ 行政の取組みがなかなか住民に届いていないのではないかと。市の広報紙やホームページで広報はされているのだけれど、「健康づくり」に関しても市の健康づくりに対する方向性などではなく、今月のけん診情報等の断片的な情報が示される場合が多い。